



ありんに便り

2014 年

7 月 14 日発行

通巻第 19 号

由木かたくりの会の家族会「ありの会」会報



「ありの会」へのご意見・ご要望は、〒192-0355 八王子市堀之内 1236-8 社会福祉法人 由木かたくりの会気付「ありんこポスト」までに郵送するか、ポストに直接投函して下さい。Eメールで送る場合のアドレスは《 arinko_renraku@yahoo.co.jp 》へ。ホームページは《 http://space.geocities.jp/arinko_renraku 》です。

第4回ありの会総会が開かれました

2014 年 5 月 10 日(土曜日)
午後 1 時 30 分より南大沢生涯
学習センター視聴覚室にて
31 名の会員が参加して行わ
れました。

3 つの議案はすべてが質
疑の上で承認されました。

家族会としての「ありの会」
が発足して 3 年が経過し、家
族会の運営を円滑に進めるた
めに役員の 4 人が留任し、新



たに 4 人が承認されました。その後自由な意見交換を行い(「グループホームの見学会の希望」「送迎バスルートの見直し」)等が出されました。本年度はグループホームの落成へ向け、地域住民の皆様とも親睦を深めより一層の相互理解が必要とされています。会員の皆様の意見、提案は本年度の活動内容に反映させていただきますので、より多くの皆様の活動への参加をお願い致します。

【総会議事報告】

1. 開会の辞:出席 31 名、委任状 35 名、会員総数 88 名中 2/3 以上となり、総会成立。
- 2.「ありの会」会長あいさつ: 備前会長
- 3.議長選出: 小川原様を選任
- 4.議事
 - ・ 報告事項: H25 年度活動報告、H25 年度収支決算報告、監査報告
 - ・ 決議事項
 - 1 号議案: H25 年度事業報告、決算報告の承認⇒拍手による賛成多数で議決。
 - 2 号議案: H26 年度役員の承認⇒拍手による賛成多数で議決。
 - 3 号議案: H26 年度事業計画、収支予算案の承認⇒挙手による賛成多数で議決。
- 5.閉会の辞

「法人 由木かたくりの会」の 事業報告・計画の説明会、引き渡し訓練が実施されました

6月19日(木)午後1時30分より、かたくりの家2階食堂において、41名の会員が参加して行われました。

炭谷理事長、各事業所責任者より平成25年度事業報告と平成26年度事業計画、会計より収支決算報告の説明がありました。26年度の事業計画については、利用者を対象とした相談支援事業についての質問や各事業所の管理者をまとめる人がいないなどの意見、会計報告については、グラフ化したり、資料を添付するなど誰が見てもわかるような工夫をして欲しいという意見が出されました。その後の全体を通しての質疑応答も、会員から活発に意見が出され、事業所間の連携不足や活動のばらつきの指摘、職員に対する不満の声が上がりました。一時は、会員の感情をあらわにする場面もありましたが、ありの会内山会長から、「今後については、意見を整理してアクションをとっていきたい。」とのお言葉をいただき、閉会となりました。職員と利用者家族との意見交換の場を増やし、問題解決に繋げていくことが望まれます。

閉会后、15時30分より、引き渡し訓練が実施されました。各事業所ごとに、集合場所を決めて、行われました。全体としては、初めての試みでしたので、問題点などあれば改善し、万が一の時にスムーズに引き渡しが行えるよう備えたいと思います。



内山会長(右から2人目)、田上副会長(右端)



遊歩道がきれいになりました

5月15日(木)天候が少し心配でしたがかねてよりの遊歩道整備を行いました。スタッフの山中さん、工藤さん、菅原さん、オヤジ会の野口さん、備前さんとありの会のお母さん総勢13名で草取りから始まり柵の作成設置、おがくずやチップを敷き詰めて完成しました。かたくりに来られた際にはきれいになった遊歩道を歩いてみて下さい。



お知らせ

◎ ありの会の会費納入をお願いします

日頃よりありの会の活動に、ご協力ありがとうございます。26年度も始まり会費納入ありがとうございます。現時点での26年度の会費納入者は74人ほどです。納入期限は過ぎましたがまだお忘れの方がいます。至急納入をお願いします。

ありの会会計：長橋、中村

◎ 由木工房で芋煮会

6月30日(月)由木工房親睦行事として芋煮会がログハウス周辺にて開催されました。

当日は芋堀りミニ収穫体験もあり利用者、スタッフ、保護者の皆さんで準備をし楽しく時を過ごしました。



◎ 投稿 — 後援会から、ありの会の皆様へ

柚木かたくりの会后援会会長 北川秀二

皆さん、こんにちは。昨年9月の総会で後援会の会長に選任されました北川です。まだまだ分からない事だらけですが、宜しくお願いします。

現在小川原事務局長をはじめとする事務局の皆様と「後援会の案内文」を作成する作業をしています。その中で「かたくりの会」が法人になる前の頃の皆様の御苦労話をいろいろと伺いました。ここまでになるのには、多くの方々の御努力のお蔭だという事が良く分かりました。これからは、なるべく「後援会」は地域住民や地域の企業・商店の皆様にも会員の中心になってもらい、「かたくりの会」をありの会の皆様と共に支える車の両輪になるということが目標です。ただ後援会会員名簿にお名前のある百数十人の方達の中には、連絡が取れなくなっている方も含まれており、昨年会費をお支払いいただいたのは40名弱のようですので、これから案内文を作成して新規会員を募集していくにしても、家族会と同時に後援会の会員になっていただいている方々には、継続的にご協力いただくことも大事だと考えています。会費は個人会員は年額2000円です。ご協力可能な家族会員の皆様には会員継続(または新規加入)についてご検討をお願いしたく存じます。

その上で後援会事務局としては、既存の一般会員に対して今後も会員継続のお願いをすると共に、新規会員の勧誘活動を行いたいと思いますので、ありの会の皆様におかれましては、ご理解ある友人・知人等の方を後援会事務局に是非ご紹介ください。ご紹介いただいた方には、後援会案内文と共にお手紙を差し上げて、後援会の趣旨を良くご説明したいと思います。ご家族の積極的なご支援で支えられてきた「かたくりの会」を、今後は地域住民や企業・商店も支えるという姿を目指して、地道に活動を続けたいと思います。最後になりましたが、「かたくりの会」を支える車の両輪として、ありの会のみなさまとエールを交換し、協力して「かたくりの会」のために活動したいと思いますので、どうか今後とも宜しくお願い申し上げます。



北川会長(2013 フェスタかたかごにて)

◎ 5月12日にグループホームの上棟式が行われました



かたくり通信でも紹介されたように上棟式があり、ホームの建物の概要が見えるようになって来ました。その後も、工事は順調に進んでいます。

ありの会では適当な時期に見学会を企画・調整して行きます。

◎ 7月7日の役員会にて法人との協議を行いました

定例の役員会は毎月1回行い、そのなかで隔月に法人との協議の場を持っています。今回の主な協議事項は以下のようです。「フェスタかたかご」⇒来週の運営会議に諮ってから実行委員会を立ち上げる。後援会のかかわり方も今回の課題の一つ。「ケアホームかたくり」⇒9月末完成、12月運営開始の予定。見学会を検討し、可能なら家族もフローリングのオイル塗りなどの建設に参加する事も検討する。「送迎バスのルート見直し」⇒現在4件ほど要望があるが、送迎車は4台運営しており定員いっぱい、すぐには対応が出来ない。増車、増員など非常に大きな見直しが必要で来期に向けて検討をすすめる。「計画相談支援」⇒先日配布された「かたくり相談支援センター（仮称）」の『計画相談支援』については今月中には書類提出の手続きが済むので説明会を予定しています。詳細は未だ決まっていますが8月中旬に概要を連絡できると思います。説明会にぜひ参加をお願いします。

◎ フェスタかたかごの実行委員を募集します

11月8日(土)第4回フェスタかたかごが開催されます。それに際しまして、ありの会の会員より実行委員を募集したいと思います。ふるってご参加ください。アイデアなどありましたら役員までご連絡ください。またフェスタかたかごの前日、当日のお手伝いよろしくお願いします。

◎ 「かたくり製品の販売・配達先のご紹介」は休載します

— 連載 11 —

社会福祉法人由木かたくりの会前理事長

かたくりの会と私と

野口洋子

喫茶コーナーの開設に向けて

喫茶コーナーの設置に関しては、あらゆる機会をとらえて訴えた。ふれあい運動会では本部テントに出向き福祉課長とゆっくりと時間をかけて話し合えた。競技を観戦し、ときに大笑いしながら話しあえてよかった。市庁舎ではアポイントもとらず課長の姿を見かけては駆け寄って嘆願した。「私をみるとその話ばかり」と、課長もやや食傷気味だったか、私もちょっとしたストーカーまがいだったかと、いま思い出すとして苦笑してしまう。

いったいに市の障害福祉課の人たちは、かたくりの会が3年も4年も苦勞してログハウスを建て作業所開設にいたった経緯を評価してくれていたから、かたくりの会にはなんでも好意的に対応してくれたのだが、地下1階、地上3階建ての総合センターの建設となると福祉課の意向がすんなりと通るとは限らない。それは理解していたが、それにしても良い返事がなかなかなかなか返ってこない。この間、異動で福祉課長が3人も替わったので、勢いストーカーまがいにならざるを得なかった面もある。

工事着工から1年以上たったが、図面の1階フロアに喫茶コーナーの記載はなく、焦りより不安に駆られた。それでまた課長のもとに駆けつける。そうした繰り返しであった。

喫茶開設の最大のネック(難点)となったのは、利用者の着替えなどに使用するワンルームを設置することにあつた。もともと1階のこのスペースは、500人を収容する主ホールの手前にあるフリースペース(市民ロビー)として構想されたもので、そこを一角とはいえ1つ団体がワンルームを固定的に設置してしまうことが問題となったのである。しかし我々にすれば、更衣に限らず打ち合わせや食事など客の目につかない場所(空間)の確保は必須の条件である。そこでどうするか、固定したワンルームではなくパーテーション(移動可能なついで)で区切ってはどうかというアイデアがら出された。ついたてなら、最悪(?)必要なとき、これを片付ければただの空間に戻せるし、その後また戻せばいいと。これが通った。(その後、文化ホールでの大きなイベント、ある団体の立食パーティがあつたときなどパーテーションを片付けまた設置し直す

大変な作業をしたことが2、3度あった)。

平成7年5月、パーティーション案が採用され、念願の喫茶コーナーが図面上に確かに落とされているのを発見した。でも喜んでいる間もなく、オープンに向けての準備に取りかかる。まず、実行委員会を立ち上げる。メンバーは、稲城陽だまりの所長大森八重子さん、南大沢在住の井上さん(製菓作りの指導者。かたくりのクッキー、ケーキを考案した)かたくりの会からは私と小田中所長、学生ボランティアの小坂順子さん石渡裕美子さんであった。

障害者で喫茶店を

八王子の作業所「かたくりの家」

サービスする側に

開店29日 自ら育てた野菜使い



職員の手伝いで菓子作りの腕を磨く会員

多摩ニュータウンの八王子市南大沢地区に菜月オープンする「市南大沢文化会館」内に、知的障害者たちが通う作業所「かたくりの家」(同市郷之内、小田中博志所長)が、喫茶コーナーを開くことになった。メニューは、作業所で育てた有機栽培の野菜を使った軽食やケーキ、紅茶、コーヒーなど。会館の「けら落とし式典」の行われる二十九日の開店に向け、障害者たちは、おいしいケーキをお客さんに食べてもらおう」と、調理の腕を磨いている。

「かたくりの家」は一九九〇年の開設。知的障害を抱えた子供たちを持つ市内の親たちでつくっていた「かたくりの会」(野口洋子代表)が、養護学校を卒業しても就職口の少ない子供たちに「働ける場を」と、同市郷之内に土地を借り受けスタートさせた。南大沢地区の酪農家の協力を得て、野菜や鉢花の有機栽培から始め、九一年にはログハウスを建設。そこを拠点に、現在十九歳から五十歳まで、障害の程度も様々な十六人の男女が農作業や牛乳パックを再利用

読売新聞 1996年9月19日

月1〜2回くらいの委員会ごとに井上さんが喫茶で出すケーキやお菓子の試作品を作ってきた。みんなで試食してはあーでもないこーでもないと、あわただしい中でもちょっと楽しかった思い出となった。

陽だまりの大森さんには、社協運営の喫茶をオープンしていたので細部にわたって指導していただいた。例えば、コーヒーカップにかたくりのマークを入れるととても優雅なものに変身するなどなど。それはいいが、より良いものはそれなりに高くなるのであきらめざるえない場合もあった。ここでも、いつものごとく準備資金の潤沢でないことは頭の痛いことであった。そこで高額な備品類をリストアップして福祉課と折衝する。この折衝力と押しも私たちの得意とする(?)ところであった。それでなんと券売機、オープン、コールドテーブル、冷蔵庫、テーブル、椅子が支給されたのであった。これらは会館の設計士さんが選定してくれたもので、いまも使用しているテーブル、椅子はイタリア製のかなり高価なものであったと後日福祉課長から伺った。

ここで1つ、ハプニング。喫茶の設置が現実味を帯びてくると、八障連から、売り上げの何パーセントかを納入して欲しいという要望が出された。私たちは、利益が安定的に得られるかどうか不安であり、納入金まで納めては経営がなりたないのではと心配なのでと断る。この件で何回も話し合いが持たれたが、結局この話はなかったことで決着した。

していた市教委文化課に何度も足を運び、協議を重ね、開設が実現したという。喫茶コーナーで働くのは、十八歳から二十七歳までの比較的障害の軽い五人の会員と「かたくりの家」の三人の職員。「かたくりの家」で生産する新鮮な野菜を使ったメニューを売り物に出るまで、一年前か

ら会員や職員、ボランティアたちが、さまざまなメニューに挑戦。この結果、残ったのは、有機栽培の野菜を添えたピラフや野菜サンド、そして、中でも、力を入れているのが、季節の野菜を添えて焼き上げるケーキだ。この秋にはニンジン、カボチャ、ホウレン草を使った三種を

登場させる。会員たちは、オープンに向け、目下、調理実習に懸命の日々。職員に手を貸してもらいながら、真剣な表情でケーキのたねを型に流し込んでいる。八王子市内の障害者による飲食コーナーの出店は、市総合福祉センターに隣接する「二丁目」で、小田中所長は

「障害者がサービスする側に立つことで、福祉の古い発想が転換されるのでは。地域に受け入れられることを目指したい」と、期待を膨らませている。

この間、どのような店にするかとか利用者の関わり方などを学ぶために多くの同様の施設を見学した。横浜、相模原、町田、東久留米から埼玉まで行った。細かい点でいくつも学び自分らの店に具体化されたが、いま記録がないので、券売機のことしか思い出せない。券売機を使用すると利用者の動きがスムーズだが、注文を聞き取る方法だとかなり手間取るといこと、それでどうしても券売機を導入したのであった。

見学した団体のメニューは冷凍品が多かった。次に冷凍品と手作りの混合などさまざまだが、私たちはあくまでも手作りにこだわった。手作りで、ある程度日持ちがして、利用者にも均質なものが作れることが条件。となると焼菓子ということになった。季節感やかたくりらしさを出すための野菜や果物を取り込んだケーキの試作が始まる。温度、保存方法、味、見栄えなどの観点から検討し、記録を取りながら1年がかりで完成の域にこぎ着けたのであった。

さっそく指導者の井上さんに母親たちが、このケーキ作りを教わる。2名のチームで、週2～3回。ほぼ全員のお母さんたちがこのケーキを作った。職員ではここまで手が回らないので、お母さん方を充てにしていたことだった。

ここで今度はうれしいハプニング。所長はじめ職員も、親たちが喫茶開設にむけてがんばっていることを知っているの、たまにはお母さんたちで旅行でもして骨休めしてください、子供たちは宿泊訓練をかねて私たちで面倒みますからという申し出があったこと。それで木曽路随一の奈良井宿に行った。ここで大いに飲み食いして深夜まで語り明かしたのはいうまでもない。

オープンまで1ヶ月というときに、学生ボランティアの小坂さんと石渡さんを喫茶の常勤職員として採用。二人は開店準備に忙殺された。

そして平成8年10月12日、喫茶「ぶらさ・de・かたくり」のオープニングセレモニーが、文化会館・交流ホールで行われた。養護学校の関係者、八王子市、八障連、近隣の作業所の方々、地域の方々など 200 名以上の来賓が集う。親たちが役割分担をして手助けしてくれる。来賓へのお土産は母親たちの手作りの例のケーキであった。

朝日、読売、アサヒタウンズ、もしも新聞などが、紹介の記事を書いてくれた。特に読売新聞は、新人記者が一年を通して印象に残った記事の当事者を再訪問して書く記事があった。「野口さんが印象深かったので……」と言われ、できたばかりの喫茶で会った。

記者と話すうちに、そもそもこの運動に取り組んだのは、障害のある利用者が、一般社会と接点のある場で働ける場を作ろうという強い思いであったことを再認識する。日々無我夢中でやってきたのでそれを忘れていたが、一般のお客さんにはきはきと応対する女の子(利用者)を見ながら記者と話していると、やっとできた、これで良かったのだという思いに打たれてちょっとことばにつまった。

こうしてマスコミや口コミで、地域の方々のかなりの人数のボランティアの申し出があり、また客として来店された。こうした方々に支えられて、一日の売り上げが10万円以上という日がしばらくの間続いたのであった。(つづく)



現在の南大沢文化会館内の喫茶の様子。
かたくりマークのカップ、お皿、ケーキやお菓子です。
(2014/7/10 撮影)

